

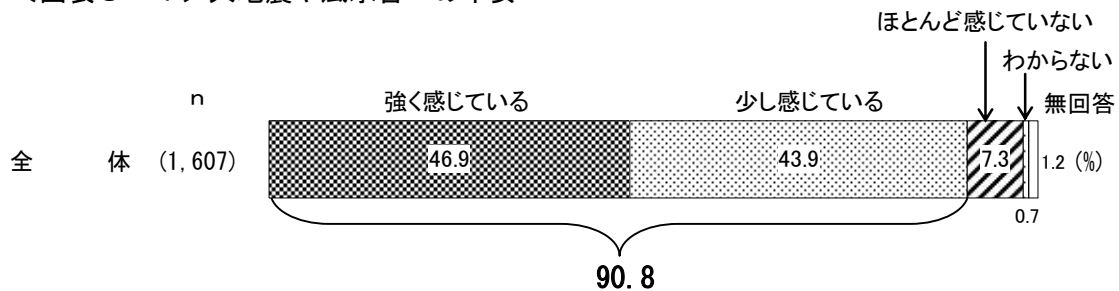
8 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

◇『感じている』が9割

問39 3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6強を記録し、大きな被害が
出ました。また、去年は、梅雨時期の記録的な大雨や台風などにより九州、中国、東海
地方を中心に浸水害や土砂災害などが発生しました。あなたは、自分の住んでいる地域
で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。(○は1つ)

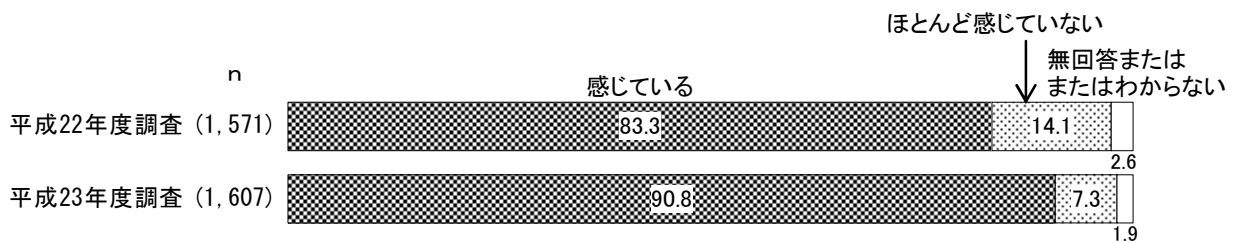
<図表8-1>大地震や風水害への不安



※調査票の設問文中に誤りがありました。正しくは「震度6強」ではなく、「震度6弱」です。訂正してお詫びいたします。

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(46.9%)と「少し感じている」(43.9%)を合わせた『感じている』(90.8%)は9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(7.3%)は1割未満である。(図表8-1)

【参考】平成22年度と同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



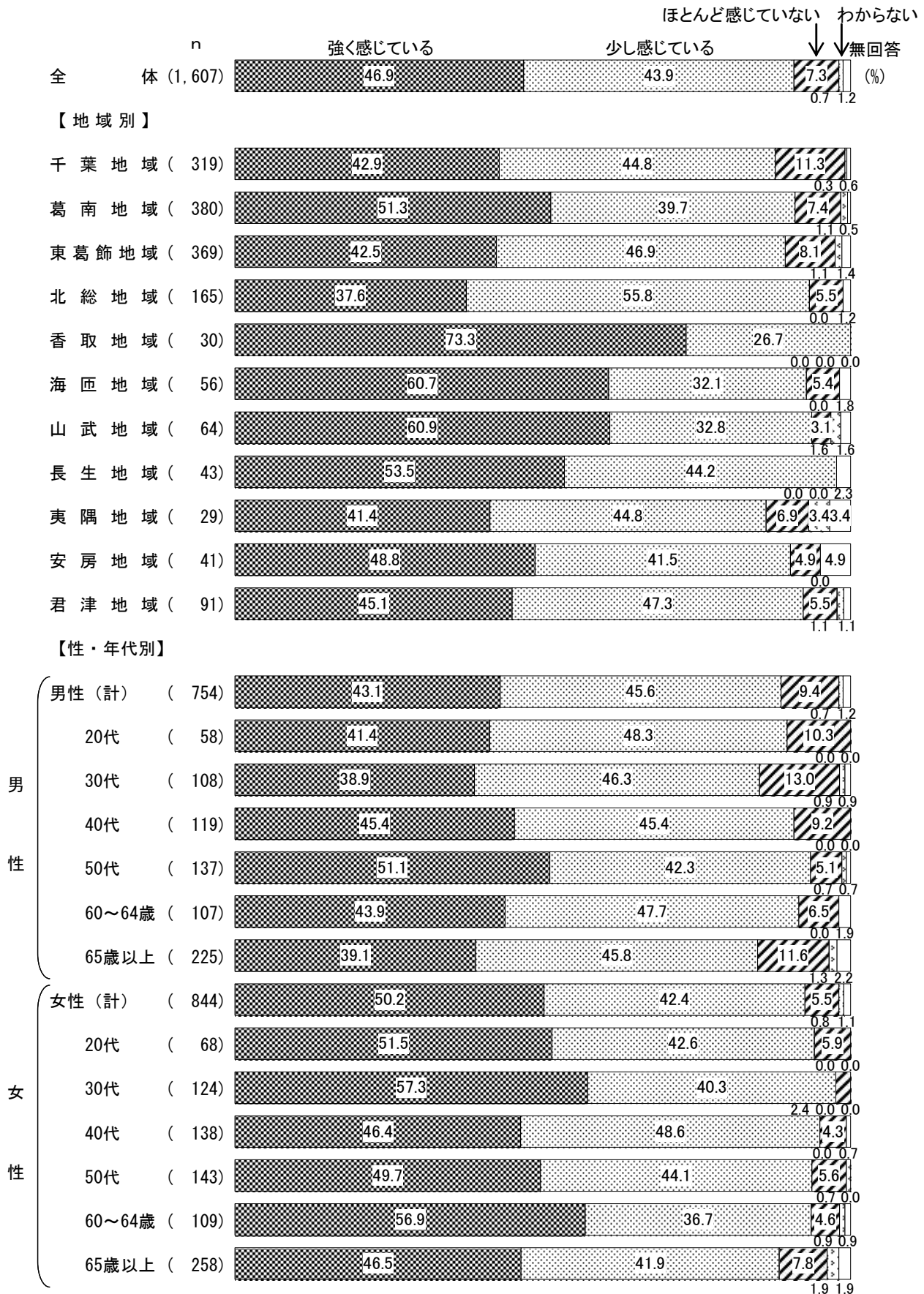
【地域別】

地域別にみると、『感じている』は全ての地域で8割以上となっている。(図表8-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている』は全ての年代で8割以上となっており、女性30代(97.6%)が最も高くなっている。(図表8-2)

<図表8-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別

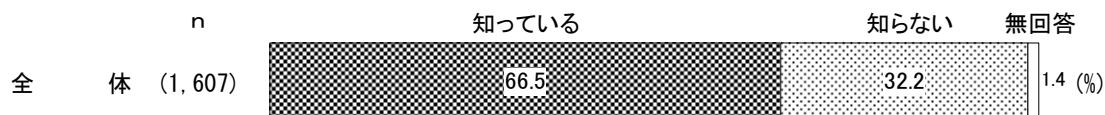


(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

◇「知っている」が6割台半ば

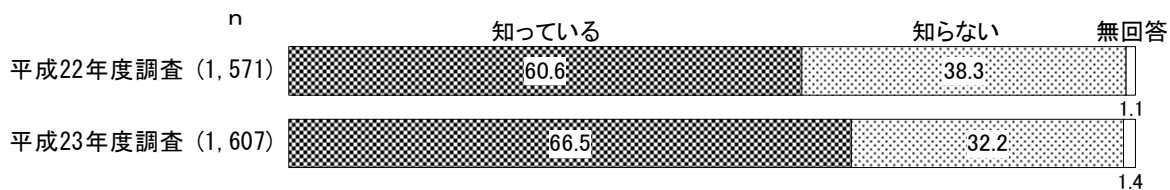
問40 市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。(○は1つ)

<図表8-3> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(66.5%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(32.2%)は3割を超える。(図表8-3)

〔参考〕平成22年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



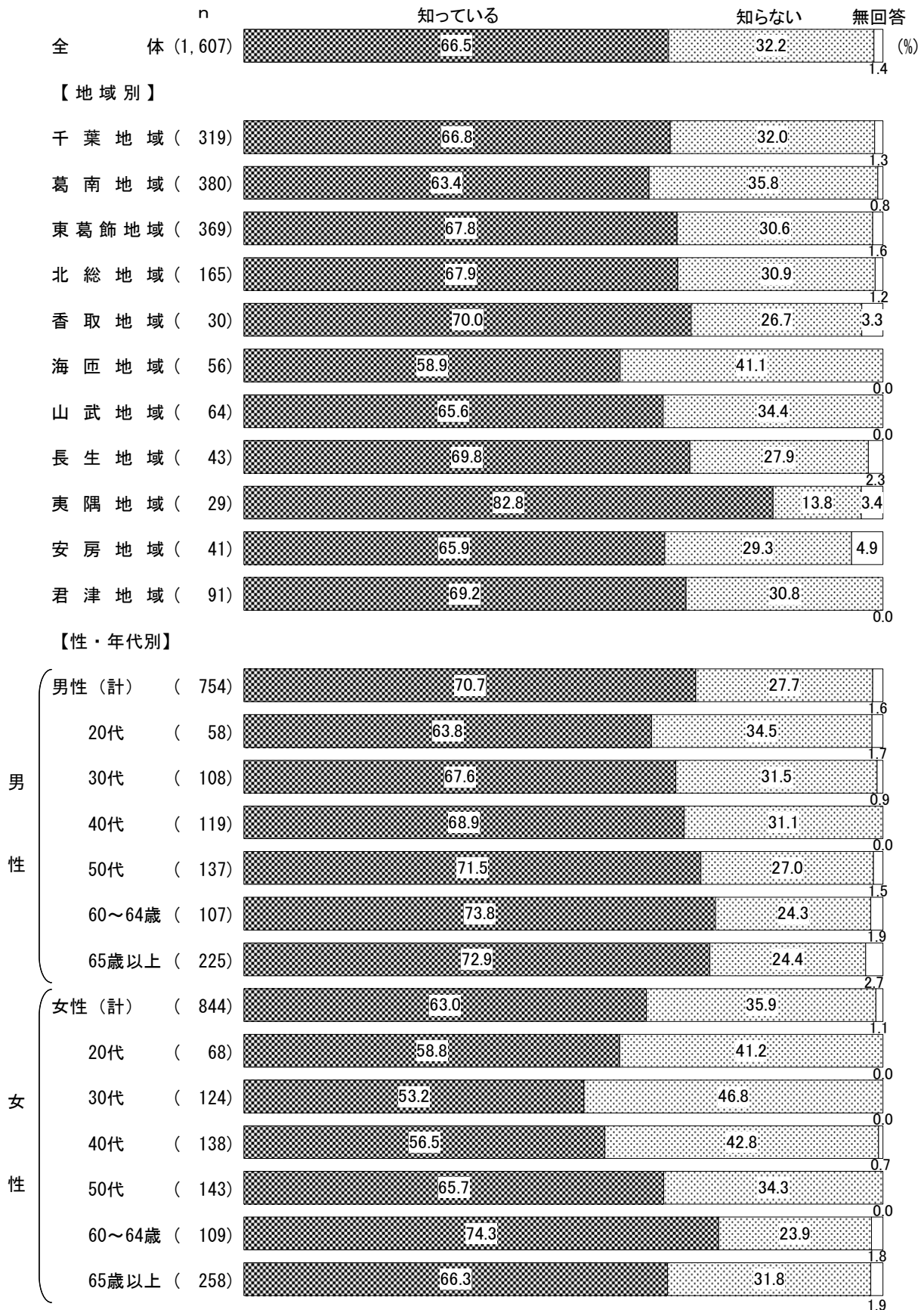
【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“海匠地域”(41.1%)が4割を超え他の地域に比べて高くなっている。(図表8-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性60~64歳(73.8%)、女性60~64歳(74.3%)が7割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。(図表8-4)

<図表8-4> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

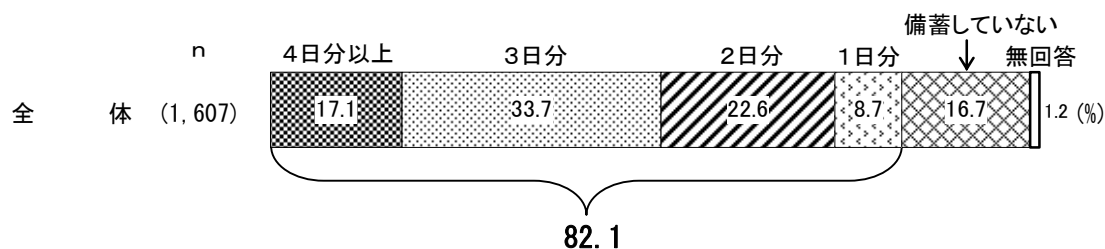


(3) 飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している』は8割を超える

問41 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫等にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。(○は1つ)

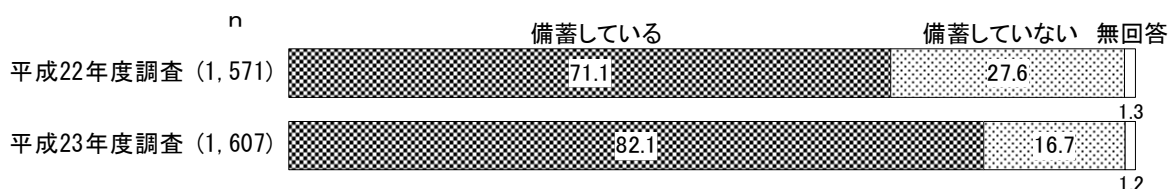
<図表 8-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(33.7%)が3割台半ば、「2日分」(22.6%)は2割を超え、これに「4日分以上」(17.1%)と「1日分」(8.7%)の4つを合わせた『備蓄している』(82.1%)は8割を超えている。「備蓄していない」(16.7%)は1割台半ばとなっている。

(図表 8-5)

【参考】平成22年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



【地域別】

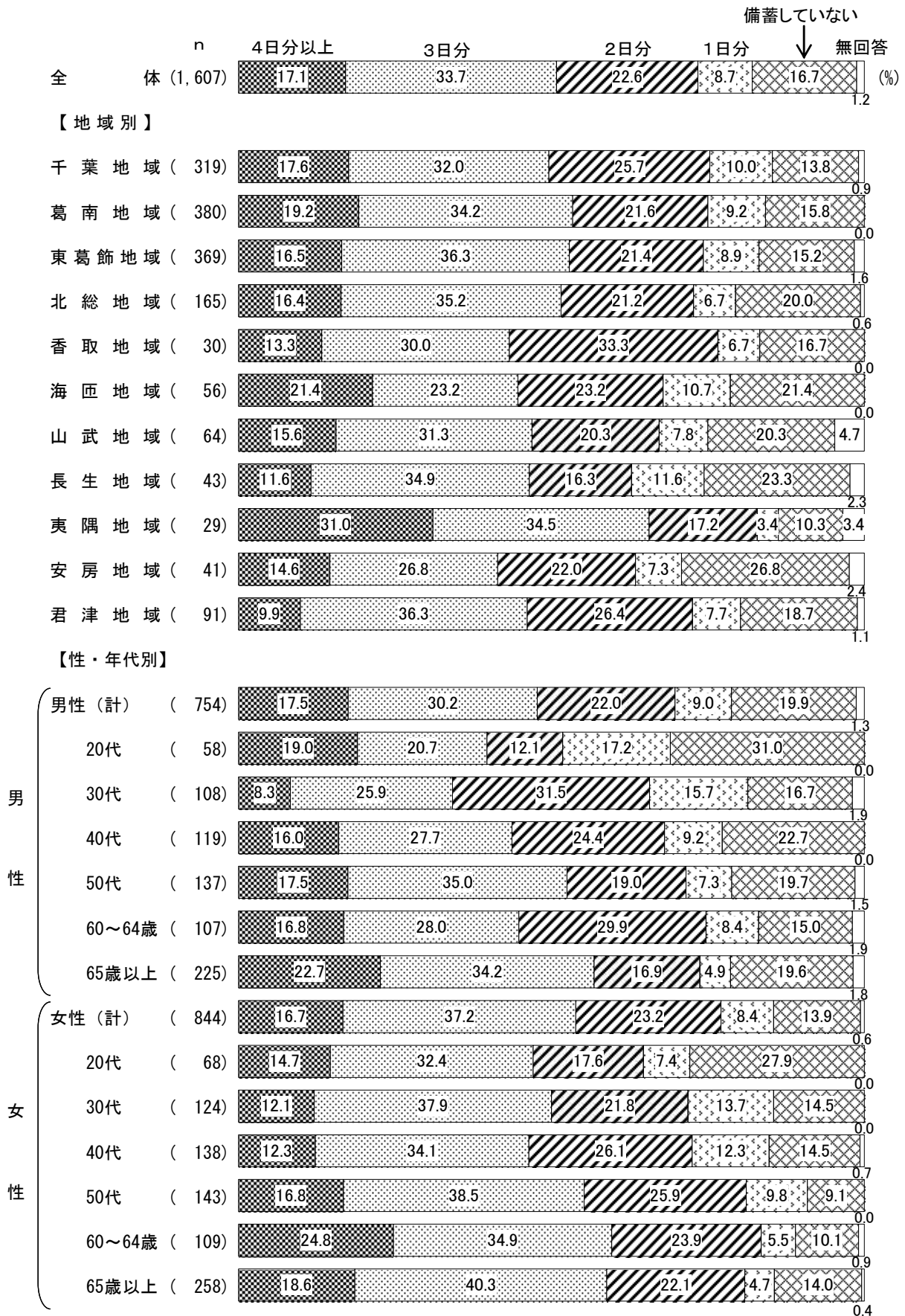
地域別にみると、『備蓄している』はすべての地域で7割以上となっている。「備蓄していない」は“安房地域”(26.8%)が2割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。(図表 8-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している』は女性50代(91.0%)が9割を超え他の年代に比べて高くなっている。「備蓄していない」は男性20代(31.0%)が3割を超え他の年代に比べて高くなっている。

(図表 8-6)

<図表8-6> 飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別

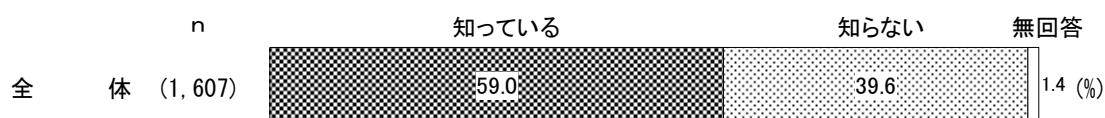


(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇「知っている」は約6割

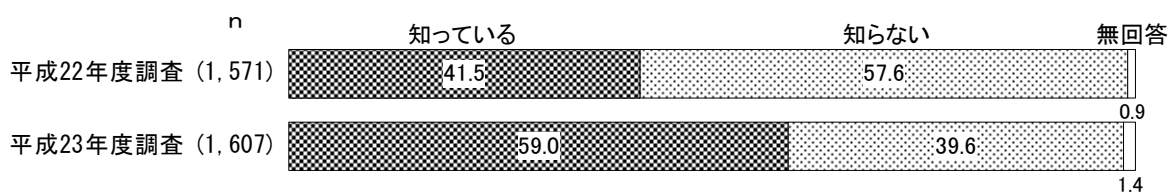
問42 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。東日本大震災でも、使用できなくなりました。あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。（○は1つ）

<図表8-7>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(59.0%)は約6割となっている。一方、「知らない」(39.6%)は約4割となっている。(図表8-7)

【参考】平成22年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



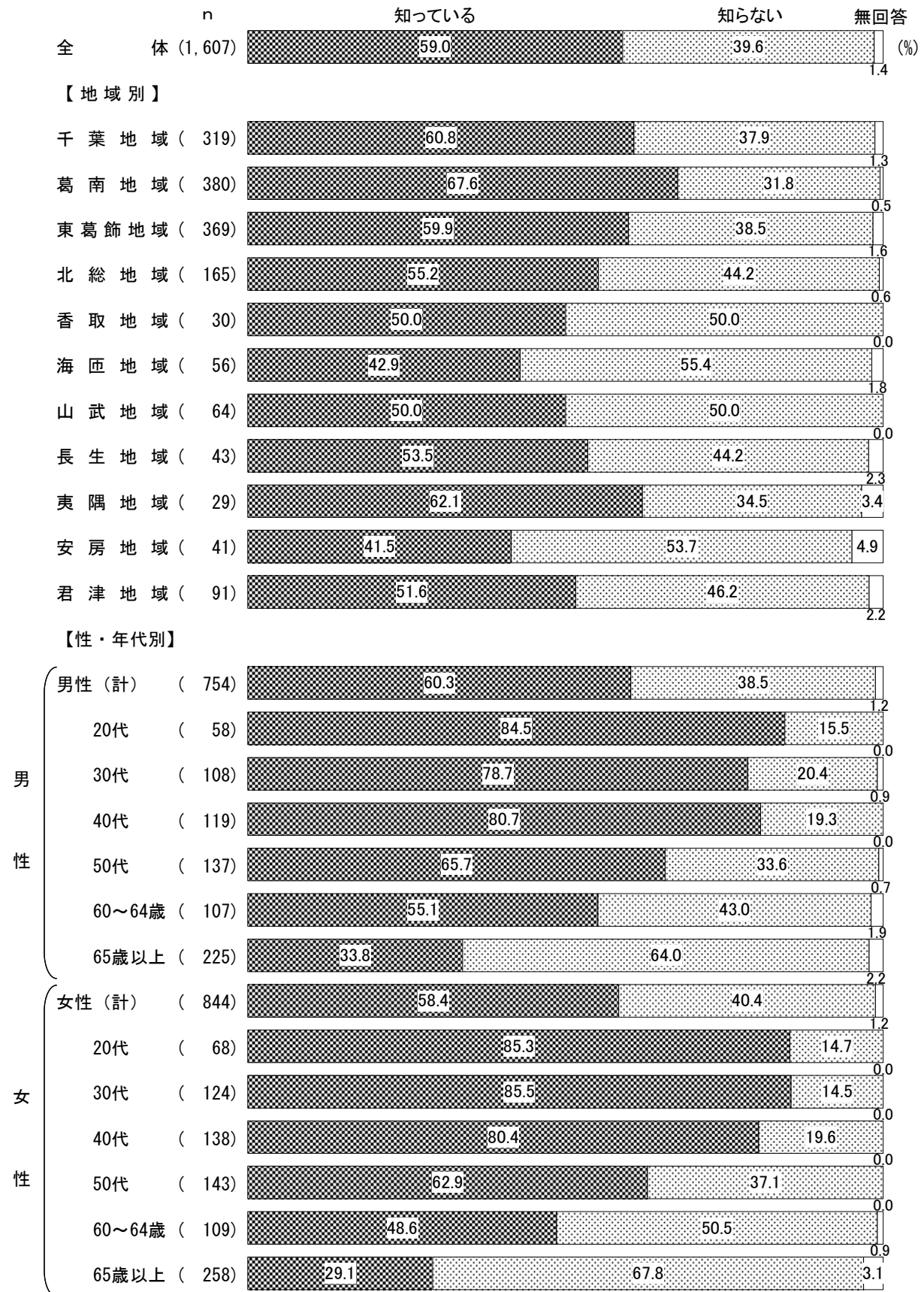
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“葛南地域”(67.6%)が約7割で他の地域に比べて高くなっている。(図表8-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」はおおむね年代が下がるほど割合が高くなる傾向が見られる。一方、「知らない」は女性65歳以上(67.8%)が約7割、男性65歳以上(64.0%)が6割台半ばとなっている。(図表8-8)

<図表8-8>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別

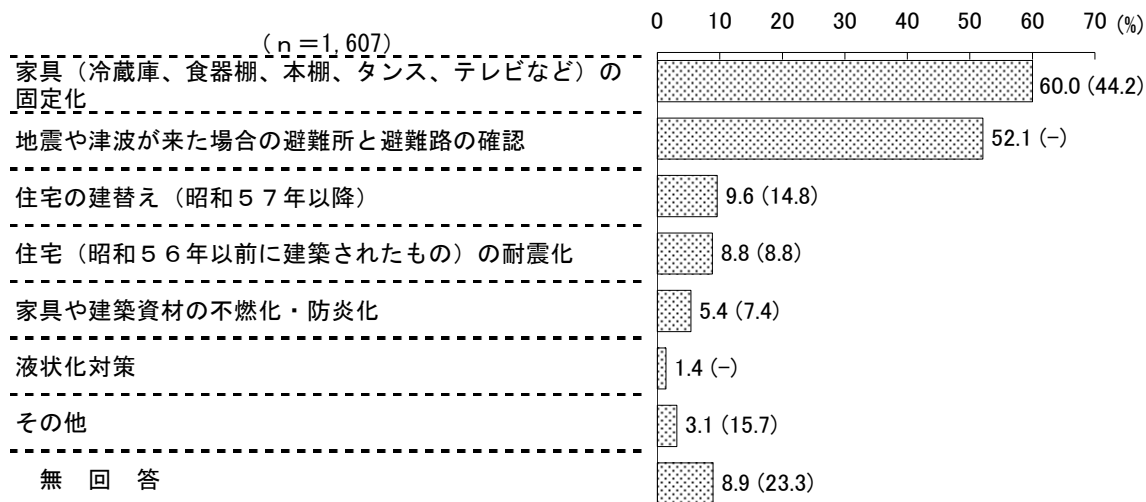


(5) 地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が6割

問43 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか。（行う予定ですか）。（〇はいくつでも）

＜図表 8－9＞地震の被害を防ぐための対策



注) () の数字は平成22年度の同様の項目による調査結果 n=1,571

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（60.0%）が6割となっており、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」（52.1%）が5割を超え、「住宅の建替え（昭和57年以降）」（9.6%）が1割と続いている。

（図表 8－9）

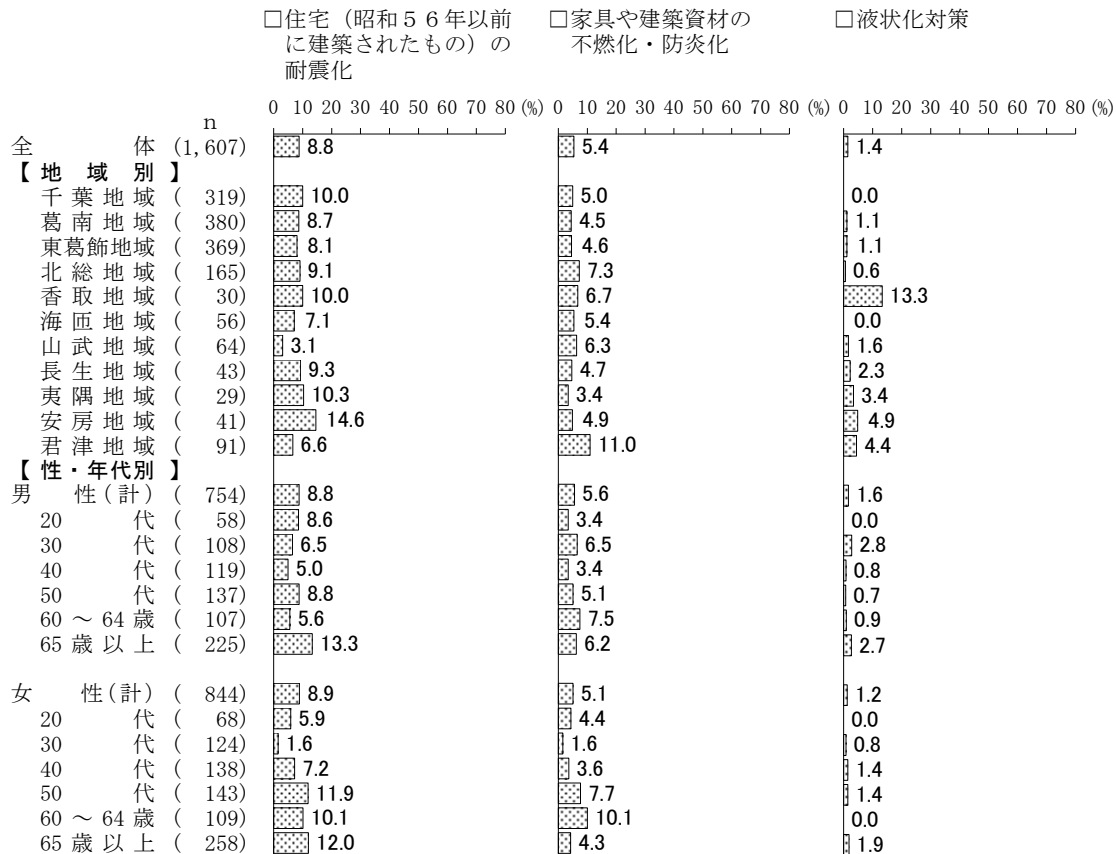
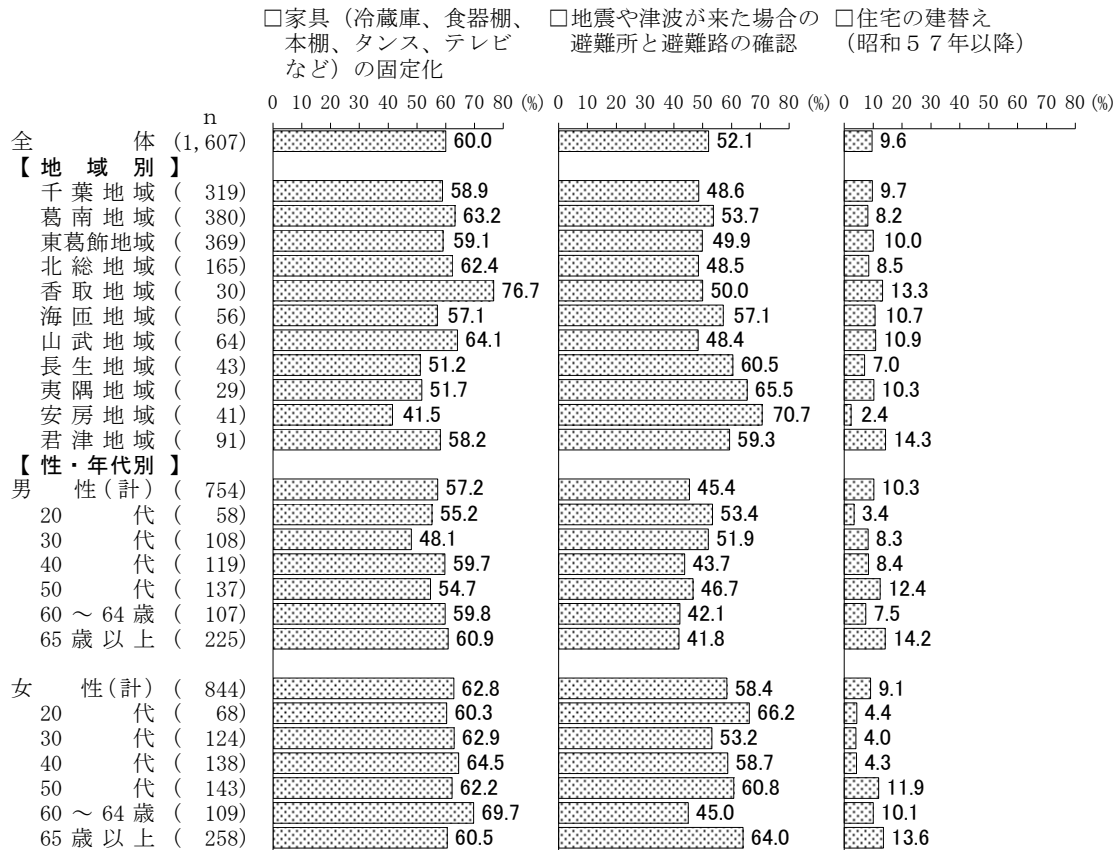
【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“香取地域”（76.7%）が7割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は“安房地域”（70.7%）が7割で他の地域に比べて高くなっている。（図表 8－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は女性60～64歳（69.7%）が約7割で他の年代に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は女性20代（66.2%）、女性65歳以上（64.0%）が6割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。（図表 8－10）

<図表8-10>地震の被害を防ぐための対策／地域別、性・年代別

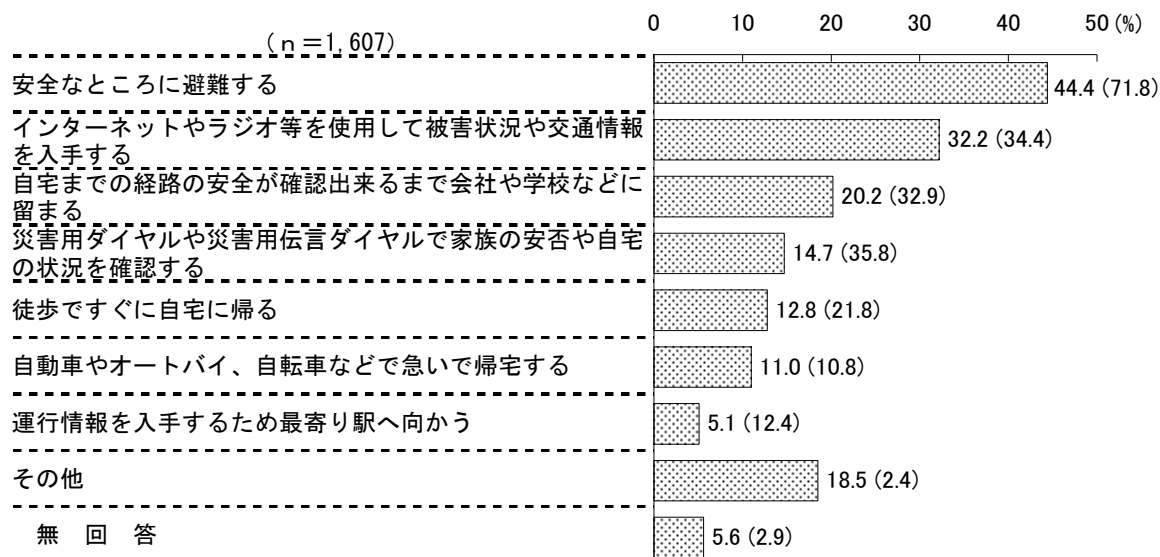


(6) 大震災発生直後にとった行動

◇「安全なところに避難する」が4割台半ば

問44 東日本大震災により、電車等が止まって、勤務先や通学先など外出先から帰宅することが困難になりました。あなたは、大震災発生直後にどのような行動を取りましたか。(〇はいくつでも)

<図表 8-11>大震災発生直後にとった行動



注) () の数字は平成 22 年度の同様の項目による調査結果 n=1,571

大震災発生直後にとった行動を聞いたところ、「安全なところに避難する」(44.4%)が4割台半ば、以下、「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」(32.2%)が3割を超え、「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」(20.2%)が2割、「災害用ダイヤルや災害用伝言ダイヤルで家族の安否や自宅の被害を確認する」(14.7%)と続いている。

(図表 8-11)

【地域別】

地域別にみると、「安全なところに避難する」は“香取地域”(63.3%)、“長生地域”(62.8%)で6割を超え他の地域に比べて高くなっている。「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」は“山武地域”(51.6%)で5割を超え他の地域に比べて高くなっている。「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」は“葛南地域”(28.7%)が約3割で他の地域に比べて高くなっている。(図表 8-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「安全なところに避難する」は女性50代(51.0%)が5割を超え他の年代に比べて高くなっている。「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」は男性30代(51.9%)が5割を超え他の年代に比べて高くなっている。(図表 8-12)

<図表8-12>大震災発生直後にとった行動／地域別、性・年代別

